【平成27年度　若手奨励研究】

(1)　地域包括支援センターにおける若年性認知症支援に向けた教育プログラムの開発

看護学科　笹森 佳子

研究の目的

地域包括支援センターで従事する専門職の若年性認知症支援と地域診断の活用状況についての実態を明らかにし、若年性認知症支援の強化に資する教育プログラムのあり方を検討すること。

調査内容

調査１：地域包括支援センターおよび圏域の概要
調査２：地域包括支援センターにおける若年性認知症者支援の実態
調査３：三職種（保健師または看護師、社会福祉士、主任介護支援専門員）の基本属性および若年性認知症支援と地域診断活用の実態

結　　果

１．若年性認知症の相談支援について
- ●支援の経験がある専門職は42名（32.8%）と少ない。
- ●相談実数が少ないため、若年性認知症に関する相談実績の把握をしていない事業所が多く、特化して把握する必要性も感じていない。
- ●新たな社会資源の開発の必要性を感じるが、具体的な方法がわからない。

⇒若年性認知症者や地域の特性に合わせた社会資源の開発に向けた研修が必要

２．地域診断の活用状況について
- ●コミュニティ・アズ・パートナーモデルの8項目について、いずれも委託型に比べ直営型の事業所において、より把握している。
- ●地域特性について把握する必要性は感じているが情報収集する時間がない。

⇒運営形態別に地域診断の有効な活用に関する研修が必要ではないか

今後の展望

運営形態によって地域診断の活用状況が異なる現状が明らかになったため、今後は地域包括支援センターにおける若年性認知症支援の強化に向けて、地域診断の効果的な活用法に関する教育プログラムを開発していく。